



県土発展のためには、地域の特性と創意工夫を生かした整備を進める必要があります。

三市十三町二村で構成する米代川流域地方拠点都市地域では、工業、鉱業、林業、地熱等の技術集積、ハイレベルな特定スポーツの振興、文

化・歴史遺産など地域の特性を生かしてそれぞれの機能分担に応じた整備を進める必要があります。また、拠点都市地域全体の振興と活性化を図って若者など人口の定住を促進し、二十一世紀を展望した地方拠点都市地域の形成を目指しています。

基盤施設整備

米代川流域地方拠点都市地域基本計画の中では、拠点都市地域が北東北の産業業務の中核を担うために重点的に整備する公共施設整備として、十年に開港が予定されている大館能代空港およびその周辺整備と活用が掲げられています。また、本拠点都市の各拠点都市間の交流を促進し北東北諸都市とのアクセスを高めるためには、日本海沿岸東北自動車道の建設など交通基盤整備を図ることがあげられています。さらに、高度情報化時代に対応し、映像通信や高速データ通信など高度な電気通信を行うためには、質が高く大きな容量の情報伝達を可能にする通信回路が必要だという考え方から、二十一世紀の基幹通信網として期待される光ファイバーケーブルなどの整備を促進することがあげられています。

今回企画されたビジュアル交歓会は、マルチメディア時

代の到来を迎えた今日、米代川流域地方拠点都市地域にある各市町村が共通の行政課題として抱えている情報通信ネットワークインフラ（光ファイバー網）の一体的整備をいかにして促進していくべきか認識を深める目的で開かれました。また、新春ビジュアル交歓会でパフォーマンスすることによって米代川流域地方拠点都市地域の存在を強くアピールし、米代川流域十八市町村全体の高度情報化を推進していくこともねらいの一つに開催されました。

「YEN」の構築に向けて

ビジュアル交歓会では、米代川流域十八市町村が一体となって情報通信の高度化に取り組み必要があるとの認識から、米代川流域地方拠点都市地域整備協議会に高度情報化研究部会を設置すること、また、その部会の事業として取り組む米代川流域地方拠点都市地域情報ネットワーク整備事業（愛称・米代川エコロジカルネットワークII YEN）の構想が提案されました。

YENは円に通じ、白神山や八幡平など世界に誇れる自然生態系に恵まれたなかにある米代川流域地域がまるやかにネットワークキングされることによって、共通、共同、協同、協力し合いながら円陣を組み、二十一世紀に向かって生産性に富む地域づくりを目指していくことを表しています。また、YENは通貨としての円にも通じ、財政面においても潤

える都市地域であって欲しいという願いが込められていて、世界経済の枠組みの中で著しい成長を遂げられるようにという意味も込められています。

重要な課題

情報基盤整備

情報基盤を整備することによって、例えば、実際に人が一カ所に集まらなくても会議が開催できるなど、モノや人の移動を情報の流れで代替できることになり、資源、エネルギーの効率的利用につながります。また、情報通信システムを利用することによって高齢者の社会参加を容易にし、テレビ電話で病院と在宅看護家庭を結ぶことにより、居ながらにして患者の様子が分かるなど介護支援体制にも威力を発揮します。

このように情報基盤整備の充実は、医療、教育、行政、防災、交通などいろいろな分野での公共サービスの高度化、効率化が図れるなどのメリットがあり、これからの重要な課題となることが予想されます。

現在郵政省が進めている光ファイバー網整備目標では、西暦二千年までに光ファイバー網の全国整備をすることが掲げられています。今後、拠点都市地域内でも高度で多様な情報通信サービスが受けられるようにしていかなければなりません。米代川流域地方拠点都市地域整備の基本計画では、情報通信基盤整備を重要な課題として位置付けています。